

思考力・表現力を高める新聞活用の工夫

～全校体制での実践を通して～

長岡市立栖吉中学校



1 NIE実践のねらい

(1) 研究主題と主題設定の理由

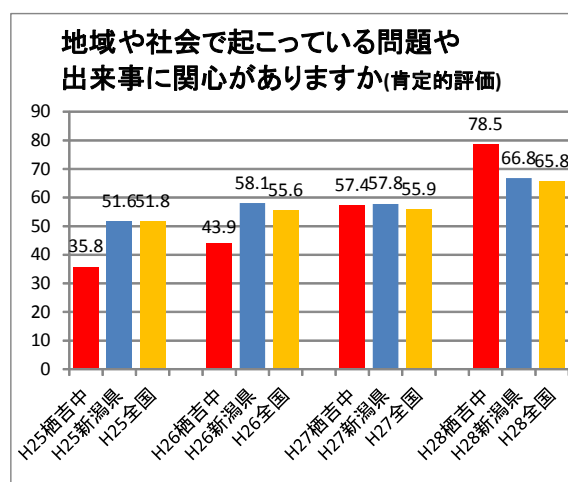
平成25年度から「思考力・表現力をはぐくむ学習指導の工夫」を校内研修の研究主題として実践を重ねてきた。生徒はどの授業にも意欲的に臨み、家庭学習が習慣化されている。宿題の提出状況も概ね良好である。基礎的・基本的な学力が身に付いており、全国学力・学習状況調査やNRT全国標準学力検査、県Web配信テストなどからは、どの学年・どの教科でも全国・県平均を上回る学力が身に付いている生徒の実態が分かる。

しかし一方で、思考力・表現力が身に付いている生徒とそうでない生徒の差が大きく、二極化が顕著である。また、身に付けた基礎的・基本的な学力を活用して考えたり、興味・関心を広げたりすることに課題が見られる。平成25・26年度の全国学力・学習状況調査[生徒質問紙]では、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という質問に対して、肯定的な回答が25・26年度ともに半数に達しておらず、いずれも県・全国平均を大幅に下回った。

昨年度は、NIE推進に向けて継続的に新聞を活用し、一定の成果を上げた。4月に実施した3年生の平成27年度全国学力・学習状況調査の「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」という問いでは肯定的評価が57.4%となり、ほぼ県・全国平均並であった。しかし、今年度実施の平成28年度調査では現3年生の肯定的評価は78.5%となり、県・全国平均を大きく上回った。この結果から、2年間の新聞活用の様々な実践を通して、地域や社会で起こっている問題や出来事への関心を高めることができたといえる。

しかし一方で、4月にとったアンケートによると、「毎日もしくは2日に1回新聞を読む」生徒が全校で約24%、「1週間に1回くらい」が24%、「全く読まない」「殆ど読まない」「月に1回程度」と答えた生徒が52%であった。昨年度に比べ新聞を読む生徒が増えたものの、日常的に新聞を読む生徒は、まだ半数以下である。新聞に親しむ態度をより一層高めていくことが大切である。

そこで、実践・研究委嘱校2年目となった今年度も、昨年度の反省を生かしながら取組を継続させるとともに、思考力・表現力を高め、課題を解決するために、全校体制で全職員が新聞活用の推進に関わることとした。



(2) N I E 研修テーマと生徒に身に付けさせたい力

H28 栖吉中学校N I E 研修テーマ

思考力・表現力を高める新聞活用の工夫
～全校体制での実践を通して～



《新聞を活用して生徒に身に付けさせたい力》

思考力

- ① 社会とのつながりを意識し、必要な情報を収集する力 (考えを広げる)
- ② 記事や論述をもとにして、自分の考えを深める力 (考えを深める)

表現力

- ① 事実や筋道を立てて、整理し、説明する力 (考えを説明する)
- ② 自分の考えを効果的に分かりやすく伝える力 (考えを効果的に伝える)

昨年度の実践を継続し、「選出された教師による、特別な新聞活用の授業を実践する」のではなく「職員全員で、日頃から新聞を活用した実践を積み重ね、生徒の思考力・表現力を高めていこう」という思いを込めた。実践2年目となった今年度は、昨年度の反省を生かしながら、全校体制での取組をさらに強化した。

(3) 新聞活用の具体的方策

全校体制で新聞を活用するために、授業を中核としながら様々な場面で教職員・生徒の両者が新聞活用に関わることができるよう、次の3つを柱として取り組んだ。

- ① 授業での新聞活用
- ② 特別活動での新聞活用
- ③ 環境づくりとしての新聞活用



2 本年度実践の概要

(1) 研修計画

4月18日(月)	生徒へのアンケート実施(実態把握), 研究推進部で研究の方向性を決定 学校の予算で新聞の購読開始(4月,5月) 新聞コーナーの設置
4月20日(水)	第1回専門委員会で、生徒会に昼の放送「NIEの日」実施を提案
5月2日(月)	研究計画案の提示
職員研修①	NIE実践校2年目の流れを共通理解し、教科ごとに構想を立てる
6月1日(水)	NIE推進協議会より新聞の配布開始(6月,7月,9月,10月の4カ月間)
6月13日(月)	NIE構想発表
職員研修③	各教科で実施できそうな新聞活用授業の構想を発表する(一人一実践)
6月22日(水)	NIE講演会 5, 6限
1年総合	講師 新潟日報社論説編集員室 中川 一好 様 (栖吉中卒業生)
7月6日(水)	校内研究授業 3年1組学活「進路適性の吟味と進路情報の活用」 長部 博光 教諭
職員研修④	研究協議会

	協議題 「キャリア教育における新聞活用の工夫」 御指導 新潟県立教育センター教育支援課 副参事 鈴木 正之 様 来賓 NIE推進協議会事務局 事務局長 土屋 修 様
7月中	「第23回 新聞記事感想文コンクール」への出品 (国語科の授業で実施, 下書き・清書を経て, 全校分取りまとめて出品)
9月12日(月) 職員研修⑥	指導案検討 1年総合「地域探訪学習 栖吉地区の良さを新聞で紹介しよう」 森田華菜子 教諭, 長谷川堯哉 教諭, 渡辺明由美 教諭, 伊藤繁明 教諭 2年道徳「よりよい生き方の追求」 山岸 透 教諭 3年社会「民主主義と日本の政治～18歳選挙権から考える～」 木嶋 正和 教諭 御指導 新潟県立教育センター教育支援課 副参事 鈴木 正之 様
10月4日(火)	1学期間の取組を振り返って, 生徒アンケートの実施, 結果の掲示
10月25日(火) 職員研修⑦ ネットワーク部会	研究授業 1年総合, 2年道徳, 3年社会の3クラスの授業公開 研究協議会 協議題 「新聞の活用は, 生徒の思考力・表現力を高めることに有効だったか」 全体会 研究の概要説明と協議会報告 来賓 産経新聞社新潟支局長 村山 雅弥 様 NIE推進協議会事務局 会 長 伊藤 充 様 NIE推進協議会事務局 事務局長 土屋 修 様 御指導・御講話 新潟県立教育センター教育支援課 副参事 鈴木 正之 様
12月26日(月) 職員研修⑩	研修のまとめ 教科部会を開き研修の成果と課題を出し合う 生徒アンケート・職員アンケートの実施
1月	アンケート結果を職員会議(職員), 全校集会(生徒)で報告 掲示物作成 全校生徒が毎日前を通る掲示板に掲示
2月	「実践例報告」(日本新聞協会), 「実践報告書」(NIE推進協議会)提出
3月	「2年間のNIE実践を終了して」(NIE推進協議会)報告

(2) 授業での新聞活用

昨年度同様, 一人一実践授業を行う際の指導案にどのような教育的効果をねらった実践なのか, 次のア～クの分類を明記した上で授業するようにした。

[新聞活用のねらいと実践授業例] ※小須戸中学校の先行研究を参考に再分類したもの

ア 学習への興味・関心を喚起し, 高めるための新聞活用

◆2年数学 10月28日(金)実施 「1次関数」(高林基子)

【読売新聞 平成28年5月24日(火)「基礎からわかる自動車の燃費」】

新聞記事を読み, 車の本体価格と燃費とを計算し, 新車を購入する際にハイブリッド車とガソリン車ではどちらが得かを, 1次関数を用いて計算し, その理由を説明する。

◆1年理科 11月6日(火)実施 「放射線について考えよう」(伊藤繁明)



【朝日新聞 平成23年9月11日(日)「事故発生時系列表」】

東日本大震災の福島第一原子力発電所事故の記事を活用し、放射線に対する興味・関心を高める。

◆2年理科 12月20日(火)「月の運動と見え方」(吉田晴紀)

【新潟日報 平成28年11月15日(火)「輝きも形も一層大きく」】

月齢カレンダーから月の満ち欠けには周期があることを見出し、その決まりを根拠として、11月14日(月)の月の姿を推測する。



イ 学習課題を解決するための新聞活用

ウ 学習をまとめるための新聞活用

◆1年総合 10月25日(火)実施「地域探訪学習『栖吉の良さを新聞で紹介しよう』」(伊藤, 渡辺, 長谷川, 森田)

【平成28年10月4日(火) 新潟日報, 産経新聞, 日本経済新聞, 朝日新聞, 毎日新聞, 読売新聞の1面】

6紙の1面を比較し、見出し、前文の書き方、レイアウトなど、新聞にまとめる際のポイントを確認する。

エ 学習したことを活用し確認したり、知識や視野を広げたりするための新聞活用

◆3年社会 10月25日(火)実施「民主主義と日本の政治～18歳選挙権から考える～」(木嶋正和)

【朝日新聞 平成28年7月11日(月)「投票の際に重視した政策」, 7月16日(土)「私たちも投票しました」

毎日新聞 平成28年7月14日(木)「10代の投票率」】

中学3年生という立場から、参院選の投票率をどう捉えたかを足がかりに、3年後有権者となる立場で、次の参院選の投票率を予測し、積極的に政治参加する意欲や態度を高める。



◆1年国語 11月10日(木)実施「玄関扉」(長谷川堯哉)

【新潟日報 平成28年6月6日(月)「グローバルにいがた 高松さんの投稿」】

中国に住む日本人女性(高松さん)が中国の学校について書いた投稿文から、主張・事実・理由を抜き出し、三角ロジックを用いてまとめ、筆者の論理を理解する。

◆3年保健体育 11月18日(木)実施「感染症の予防」(長部博光, 石川智推)

【中日新聞 平成21年8月16日(日)「新型インフル国内初死者 沖縄の57歳男性」】

新聞記事を読み、感染症の主な原因と特徴を理解し、感染症の予防について考える。

◆3年英語 12月15日(木)実施「Lesson4 The Story of Sadako」(関 京子)

【新潟日報 平成28年5月28日(土)「オバマ米大統領所感全文」】

オバマ米大統領の広島訪問の記事を読み、使われている英語表現からスピーチに込められた思いを理解し、広島訪問の意味や平和について考える。



オ 新聞のしくみや記事の構成を知る教材としての新聞活用

カ 主たる教材としての新聞活用

◆全校 毎月1回実施「骨太学力向上タイム」(研究推進部+国語科)

新聞記事のコラムを読んで、筆者の主張を読み取り、それに対する自分の考えを160字以上200字以内の短作文にまとめる。添削したものは国語の授業で紹介し、良い作品を学年だより等でも紹介する。

◆3年学活 7月6日(木)実施「進路適性の吟味と進路情報の活用」(長部博光)

実践例

【新潟日報 平成28年4月13日(水)「生き残りへ人材確保」, 読売新聞 平成28年5月17日(火)「自己分析シートで整理」, 産経新聞 平成28年6月6日(月)「脅威か希望かAI新時代」】

現代の企業が求める人材の特徴を知り、人間の良さやAIの良さについて考えることで自分自身の適性や良さを知り、互いに認め合うことで自分に自信をもって表現し、進路選択に向けた意欲を高める。

◆2年道徳 10月25日(火)実施「よりよい生き方の追求『吉田沙保里さんの生き方に学ぶ』」(山岸 透)

【毎日新聞 平成28年8月18日(木)「タックルは父の形見」、8月20日(土)「吉田 金以上の銀」
 新潟日報 平成28年8月20日(土)「レス吉田選手 価値高い銀」】
 今夏のリオデジャネイロオリンピックでレスリング吉田沙保里選手が決勝で敗れた背景(父の死、周囲の期待など)を知り、困難を乗り越え、目標に向かって前向きに挑戦する姿から、自分の生き方を考える。

キ 基礎的・基本的事項の定着を図るための新聞活用

- ◆1年数学 10月4日(火)実施「3章 1次方程式」(渡辺明由美)
 【新潟日報「ふむふむ」平成28年4月19日(火)「旅人算」】
 日本独自の数学である「和算」の中で、生活の具体例から作られた「旅人算」を、1次方程式を利用して解き、基礎・基本を定着させる。
- ◆3年音楽 10月13日(木)実施「豊かな合唱表現を目指して」(高橋千帆)
 【読売新聞 平成28年9月1日(木)「腹式呼吸でハキハキと」】
 腹式呼吸のトレーニング方法のポイントを押さえることで、歌唱に必要な呼吸法を定着させる。
- ◆1年美術 11月4日(金)実施「鑑賞『浮世絵』」(鈴木史那子)
 【産経新聞 平成28年5月29日(日)「絵師と摺師が生む『初摺』の迫力」】
 東京・サントリー美術館で開かれた「広重ビビット」展の記事を活用し、浮世絵作品と時代背景の関わりや、西洋画家に与えた影響について考えを深めさせる。

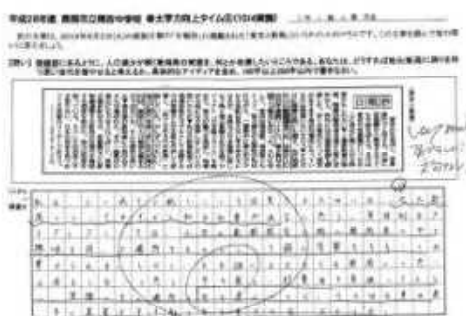


ク その時代を反映する記録としての活用

(3) 特別活動での新聞活用

① 月に1回の「骨太学力向上タイム」の実施

朝読書の時間帯15分間を利用し、新聞のコラムを読んで問いに対する答えを200字以内で書く。全校一斉で実施し、国語科の授業で良い例を示しながら解説・返却する。良い作品は掲示板に掲示したり、学年だよりで紹介したりする。



② 終学活での「気になるニュース」の紹介

昨年度は特定の学年でしか実施できなかったが、今年度は書式や方法を揃え、全校体制で実施。輪番制で割り当て、記事の内容だけでなくそれに対する自分の感想も述べる。記事と感想を貼り付けた用紙は教室の後ろに掲示した。



③ 生徒会専門委員会による新聞記事紹介「NIEの日」

週に1回、各専門委員会の活動に関連する記事を昼の放送

で紹介し、感想を述べる。昨年度は3年生の委員長・副委員長のみの発表だったので、今年度はそれ以外の委員にも発表を割り振り、多数の生徒にスポットライトが当たるようにした。

④ 部活動での新聞活用

部活動で活用できる技術、効果的なトレーニング、心構え等を紹介する。体育館の壁など生徒の目に留まるところに掲示したり、ミーティング等で配布したりした。



(4) 環境づくりとしての新聞活用

① 「NIE 掲示板」の活用

昨年度は、新聞記事を教務室前の掲示板にしか掲示しなかったが、今年度は有孔ボードを3枚購入し、生徒玄関に掲示板を設置。前日の新聞記事の1面や、「ふむふむ」「fumfumJ」、表彰された生徒の記事などを掲示した。



② 各学年フロアの「新聞コーナーの設置」

昨年度の「新聞を広げて読む場所がない」との反省を受け、新聞を広げられる長机を各学年の廊下に設置。「気になるニュース」「NIEの日」などで気軽に切り抜き利用できるようにした。また、NIE推進協議会より配布される4カ月間の新聞以外の期間も、学校の予算で6紙購入し、各学年フロアに2紙ずつ配置できるようにした。



③ 各教室の「新聞かご」の設置

新潟日報社に送っていただいている「ふむふむ」と新潟日報、「fumfumJ」を各教室に配布し、かごに入れて保管。気軽に新聞を手に取り活用できる環境をつくった。



3 授業実践例 3年学活(全2時間：本時1／2) (カ) 主たる教材としての新聞活用

(1) 主題名「進路適性の吟味と進路情報の活用」

(2) 資料名 新聞記事1：「生き残りへ人材確保」【新潟日報 平成28年4月13日】、

新聞記事2：「脅威か希望かA I 新時代」【産経新聞 平成28年6月6日】

(3) 授業のねらい

現代の企業が求める人材の特徴を知る。人間の良さやA I (人工知能)の良さについて考えることで自分自身の適性や良さを自覚し、互いに認め合うことで自分に自信をもち、進路選択に向けた意欲を高める。

(4) 新聞活用のポイント

進路選択に向けてこれからの時代に求められる資質・能力やA I との共存について書かれた資料を選定し、現在の自分と比較し振り返ることができるようにする。



(5) 指導の実際 (授業者: 長部 博光 教諭)

	○:学習活動 S:生徒の反応 T:教師の働きかけ
導入	<p>○進路選択に際して社会情勢や背景について学習することを理解する。</p> <p>T: 今の企業は、就職しようとする人に何を求めているのだろうか</p> <p>○新聞記事1「生き残りへ人材確保」のグラフのうち、隠されている項目は何かをペアで考え、ベスト4にはどんな資質・能力が入るかを話し合う。</p> <p>S: コミュニケーション力 S: 積極性 S: 語学力</p> <p>1位 コミュニケーション能力 2位 人柄 3位 行動力 4位 チャレンジ精神</p> <p>T: 答え合わせは授業の最後にします。</p>
展開1	<p>○A I が搭載されたロボット(ペッパー)の写真を見て授業への興味と意欲をもつ。</p> <p>S: 見たことある S: 携帯電話会社にいた</p> <p>○新聞記事2「脅威か希望かA I 新時代」を読み、A I に仕事を奪われたらどうなるか、A I を導入しないとどうなるかを考え、近くの席の人と意見交流する。</p> <p>S: お金がなくなり生活できなくなる S: 諸外国に遅れをとる</p> <p>○「脅威か、希望か」自分の考えに従い挙手する。</p> <p>T: 人間とA I のメリット・デメリットを挙げよう。</p> <p>○個人で考え、ワークシートに記入する。その後、生活班の形に机を合わせ、班で意見交流する。</p> <p>人間のメリット: 相手の気持ちを読み取る, 情がある 人間のデメリット: 気力・体力に限界あり, 人件費がかかる A I のメリット: 限界がない, 24時間稼働できる, コスト削減, 早くて正確 A I のデメリット: 相手の気持ちを読み取れない, 言葉の含みを理解できない</p> <p>T: 雇い主, 同僚, 取引相手等, 様々な立場から考えてみよう。</p> <p>○それぞれの項目を2班ずつが担当し, 意見をホワイトボードに記入して発表する。</p> <p>S: なるほど, 確かに人間にもA I にもそれぞれに長所と短所があるなあ</p>
展開2	<p>T: これからの私たちには何が必要か, 考えよう。</p> <p>○個人でじっくりと考え, ワークシートに記入する。</p> <p>○考えたことを挙手して発表する。</p> <p>S: 色々な人とコミュニケーションをとること S: 相手の立場や気持ちを考えた行動をとること</p> <p>○新聞記事1で考えた資質・能力の答え合わせをする。</p> <p>1位 コミュニケーション能力 2位 人柄 3位 行動力 4位 チャレンジ精神</p> <p>S: やった! 当たっていた! S: なるほど</p>
まとめ	<p>○本時の振り返りをし, 考えたこと・感じたことをワークシートに記入する。</p> <p>S: 就職するのが難しい時代になるからこそ, 自分の長所を伸ばしていきたい S: A I に負けないように, 相手の気持ちを理解して対話する力を身に付けたい T: 次時は, 自分の個性や長所に気付き, 自己PRがスムーズにできるように, 皆さんの適性について考える授業をします。</p>



平成28年4月19日(水) 新聞日報より



4 成果(おわりに)

12月末に生徒アンケートを実施し、2年間の取組を検証した。どの生徒も新聞活用の諸取組の成果を実感していることが分かった。【生徒アンケートより】

- 「骨太」で、要点をしっかりととらえ、指定字数に応じてスラスラ書けるようになった。
- 「骨太学力向上タイム」をやってから、家で新聞を読んだ時に、その記事に対する自分の考えがすぐに思い浮かぶようになった。
- 「気になるニュース」の発表では、朝、新聞を読んでいなくても、今日や最近のニューを知ることができるので良い。これがあることによって新聞を読むきっかけになる。

特に今年度は、3年生を中心に、以下のように興味・関心の向上が顕著に見られた。

- ニュースで見た記事の内容をもっと知りたくて、最近は新聞記事をよく見るようになった。
- 家にある新聞と学校にある違う会社の新聞を見て、どこが違うかなどを見るようになった。
- 放送や日直で自分が紹介した記事に詳しくなり、そのニュースの経過も意識してチェックするようになった。入試の面接で時事問題について聞かれることへの不安がなくなった。

また、新聞活用についての要望や改善策として、

- ・新聞を活用した授業をもっと増やす。各教科、年に4回してほしい。
- ・先生たちが朝に新聞の話をするようにして、興味をもって読んでもらえるようにする。
- ・終学活の「気になるニュース」を、朝学活でもやる。
- ・各社の紙面を参考にして、社会で起きていることについて自分たちで新聞を書く。
- ・家から新聞をもってきて、朝読書の時間などに新聞を読む時間をつくる。

など、前向きな要望で、なおかつ具体的に案を記述した生徒が多かった。

一方で、教師側も新聞を活用する利点と成果を実感し、2年間の実践に自信をもつことができた。【教師アンケートより】

- ◇新聞を活用することで、授業に説得力が増し、生徒の興味を惹きつけることができた。
- ◇「骨太学力向上タイム」で文章力が身に付いたと実感する生徒が多い。生徒自身が一番効果を感じていると思う。
- ◇記事の内容を要約したり、自分の考えを書いたりする力が付いてきている。
- ◇「NIEの日」は、それぞれの委員会活動の目的や内容が、新聞を使うことで、社会とどう繋がっているのかが分かって、活動の意義がより深まった。
- ◇自分の教科に関する記事を探したり活用したりすることを考える視点で新聞を読むことで、新たな授業の発想が生まれた。



研究発表会で実践発表をした職員だけでなく、全校体制で職員と全校生徒が一丸となって取り組み、自らの手で成果を作り出すことができたことが何よりの成果である。

地域や社会で起こっている問題や出来事への関心は改善されたものの、一方で、平成28年度実施の全国学力・学習状況調査の結果からは、次のような課題も明らかになった。

- ◆友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意ですか？ 8.9% (県：17.7% 全国：17.6%)
- ◆将来の夢や目標をもっていますか？ 39.3% (県：41.4% 全国：45.1%)

これらの課題の解決に向けて、来年度も今年度までの新聞活用の取組を継続し、新聞購読を続けるなどして、さらに生徒の力を伸ばしていきたい。